

令和4年度第3回亀岡市環境審議会議事録

開催日時	令和5年2月8日(水) 午後1時～午後2時30分
開催場所	亀岡市役所1階市民ホール
出席者	高澤委員、黒田(幹男)委員、永田委員、田部委員、西村委員、太田委員、 黒田(洋二郎)委員、中西委員、浦幹事、伊豆田幹事 (事務局4名)
欠席者	櫻井委員、井内委員、稲村委員、山内幹事、由良幹事
傍聴者数	1名
次第	審議事項 (1)亀岡市再生可能エネルギー導入戦略・亀岡市地球温暖化対策実行計画 (区域施策編)の策定状況について (2)世界に誇れる環境先進都市の取組について

1 委嘱状交付

2 会長選出・挨拶

3 審議事項

(1)亀岡市再生可能エネルギー導入戦略・亀岡市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)

の策定状況について

《資料に沿って事務局から説明》

委員

再生可能エネルギー導入目標の部分で、電力換算で 11.6 万 MWh とあるが、何を基準に換算しているのか。

事務局

国の公表資料により算定しており、40,000t-CO₂ を電力量に置き換えると、11.6 万 MWh に相当する。

委員

国の基準は市民には分からない。

事務局

計画書 47 ページのコラムで、11.6 万 MWh のうち、再生可能エネルギーでまかなう 8.8MWh 分の目安などを説明させていただいた。

委員

やはり分かりづらいと思う。また、パブリックコメントの意見がなかったということだが、そもそもパブリックコメントではなく、市民全員にアンケートを配った方が良い。市民の関心がないのでは。

事務局

意見を聞く手法ということでパブリックコメントを実施し、一定の手続きに従って進めさせていただいた。周知するという点では引き続きしっかりとやっていきたい。

会長

パブリックコメントのお知らせもホームページなどになると思うが、アクセスできる人が限られるなど、方法を考えなければならなかったと思う。

一方、47 ページのコラムなどは目安が分かりやすく、よくできていると思う。

委員

太陽光発電の導入にあたり、個人の負担も発生すると思うが、国や府の補助などはあるのか。また、自動車について、プラグインハイブリッドカーなども出てきているが、こちらも高額となっている。市だけの施策で実現は難しいが、費用面のバランスも取っていかなければならないと思う。

事務局

太陽光発電の設置については、現在亀岡市では、パネルと蓄電池の同時設置に対し、補助金を設けている。府の補助金に上乘せしており、枠は限られているが、活用を促していきたい。

EVについては、次年度以降、情報収集しつつ効果的な施策を検討していきたい。

委員

再生可能エネルギー導入の促進区域を設けるという話があったが、すでに準備は進めているのか。

事務局

今後の話となるが、促進区域の設定には専門的な知識や技術が必要となることから、事業者への委託を考慮しており、国の補助金も申請していきたい。

委員

風力発電や小水力発電についても地図でポテンシャルを示しているが、これは実地調査済みなのか。

事務局

あくまでポテンシャルという観点で記載しており、採算性や事業の実施可能性の調査については次年度以降となる。

委員

次世代自動車を製造する際に、銅などの原材料が必要となり、その産出国が限られているため、争奪戦になる可能性があるという話を聞いた。そのような問題についてはどう捉えているか。

もう一つ、地球温暖化と言いつつ、今年は大雪が降った。なぜこのような現象が起こるのか。

事務局

原材料に関わる課題は新聞報道などもなされているところだ。温暖化対策のアプローチは次世代自動車だけではないため、国や府の取組に合わせて多方面から手を打っていきたい。

地球温暖化については、確実に平均気温は上昇している一方、日本にとどまらず、気温が極端に下がるなどの異常気象は世界で起こっている。

会長

今回の大雪のように、地球温暖化によって気象の極端化が起こっている。一部分だけ極端な気候が出てきてしまうような、大雨や台風も今後増えていく可能性がある。

委員

第 8 章の推進体制に関して、令和 5 年度のスタートにあたり、すでに庁内の関係各課と連携や調整など具体的な取組を進めているのか。

事務局

環境部門や産業部門など様々な部署がある中で、施策ごとに関連する部門と協議を進めている段階だ。

委員

目標達成に向けた施策もたくさん記載がある中で、令和 5 年度から取り組もうとしている具体的なものを教えて欲しい。

事務局

再生可能エネルギー導入の促進区域の調査や検討を進めたいと考えている。あわせて、バイオマス関連やごみの資源化なども検討したい。

委員

現在も太陽光パネルと蓄電池の設置に対して補助を行っているということだったが、目標数値に対してかなり不足している。今後も市民が導入しやすい施策はもちろん、民間企業や農家などあらゆるところに働きかけて再生可能エネルギーの確保を進めて欲しい。

事務局

家庭だけでなく企業の工場などは広い面積が取れるため、亀岡ふるさとエナジーといった地域エネルギー会社を核に、このような有効な太陽光発電のポテンシャルを活用していきたい。

家庭、事業所そして省エネと様々なエネルギーをミックスしながら、目標に向けて取り組んでいきたい。

会長

再生可能エネルギーの促進区域に関して、区域とは地域を指すのか、それとも事業を指すのか。

事務局

地域に網掛けをしていきたいと考えている。

会長

選定方法は。

事務局

国としては、市域全体をエリア分けする方法、公共施設群などを選定する方法、事業目的で設定する方法などを示している。亀岡市にとって望ましい方法も含め、検討していきたいと考えている。

会長

計画の完成後には、冊子が全戸に配られるのか。

事務局

紙の使用量を抑えるため、ホームページ上にデータで公開したいと考えている。

委員

皆に分かりやすいのは、63・64 ページの私たちができる脱炭素のコラムだと思う。これをPRすると良い。また、用語集も参考になる。

事務局

見せ方については工夫しながら広報していきたい。

会長

目標達成のためには、各家庭が今から取り組むようなスピード感が必要だ。周知の方法がホームページだけでいいのか。計画が完成し、では私たち一人ひとりが何をすればいいのか伝えられるよう検討して欲しい。

事務局

ホームページや広報誌、SNS など機会を捉えながらお知らせしていきたい。

(2)世界に誇れる環境先進都市の取組について

《資料に沿って事務局から説明》

会長

環境拠点施設とはどのようなものか。

事務局

環境拠点は、駅北に立地し、周辺にはサンガスタジアム by KYOCERA や保津川下りなどがある。そこを拠点に環境の取組を発信し、ワークショップなどを通じ、市民の交流の場となり、新たな施策につながるような場にしたい。

会長

広場やホールのような空間か。

事務局

3階立ての施設で、延床面積は300平米ほどかと思う。2・3階をワークショップなどに活用する想定だ。

委員

ごみ焼却施設の建て替えや発電などについて計画で触れるべきでは。

事務局

本計画は、地球温暖化対策地域実行計画であり、ポテンシャルなどを示した上で、方向性を示すものだ。ごみなどの資源活用についても施策で触れているところだ。

焼却施設に関連し、4月からは分別拡大を予定している。資源の有効活用のほか、ごみの減量にもつなげていきたい。将来的にどの程度の施設が必要か、立地なども含め様々な要素を踏まえて検討する必要があると考えている。

委員

構想として計画に記載しては。

また、紙類を資源ごみとして分別拡大するが、プラスチックと紙を混ぜて燃やさないで火力が上がらず、重油を使うことになるのではないか。

事務局

汚れたプラスチックなど、どうしてもリサイクルに回せないものもある。施設の維持管理の中で、ごみの投入量や種類のバランスをとっていきたい。

ごみ焼却施設については、計画書で示すタイムスケジュールのうち、資源循環を活用した再生可能エネルギーの導入の中に要素として含んでいる。

委員

先ほど説明に使用した資料は、誰に向けて作成したものなのか。

事務局

亀岡市では、プラスチックごみゼロ宣言以降、環境の取組についての視察を多く受け入れており、その際に使用する資料であった。新しい委員にも市の取組を伝えたいという意図があった。

4 閉会

以上